

学校教育目標		「一人一人が活躍でき誇れる榛原中」～目標を持ち主体的に生きる生徒の育成～						
運営方針		学校教育目標の実現を目指し、教職員がその任務を自覚し、創意あふれる教育活動を展開する。 ・ 生徒の自尊感情の高揚と人権が尊重される学校づくり (正しい判断力と強い意志を養い、規範意識を高め、自立的な生活態度を養う) ・ 授業の充実、改善を図り、生徒の「確かな学力」の保障 (主体的に学ぶ態度を養い、学んだことを活用する力を育成する) ・ 家庭や地域との信頼関係の構築及び地域に根ざした特色ある教育の推進 (自己敬愛に基づく人間関係を深め、社会連帯の精神と社会貢献する態度を養う)						
前年度からの課題		本年度の重点			・ 学習に対する意欲の向上と習慣化 ・ 道徳教育の補充・深化・統合 ・ 人権教育・特別支援教育の推進 ・ ICTを活用した授業の充実 ・ 地域連携、校種連携の推進 ・ 自分たちが誇れる学校の創造			
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目	評価指標	評価	成果と課題	課題の改善方策等	
I 教育 活動 に 関 す る も の	(1) 生徒指導	①挨拶の日常化	・ 学校内での挨拶の実施状況	・ 生徒アンケートの結果が約80%となったか。	B ↓	A	●全教職員による朝の校門前での指導や、生徒会が行う「あいさつ運動」などにより、習慣化している。 ▲主体的に挨拶する生徒が増えつつある。約70%の生徒が「1学期に比べよく挨拶するようになった」と答えている。 ▲挨拶する生徒は多くなったが、学校外での挨拶の状況は67%と限定的であり改善の余地がある。 ●環境委員会を中心に用具の管理・点検、ワックス掛けを定期的に行っている。 ●清掃時間を概ね週3回確保し、熱心に取り組んでいる。 ●いじめアンケート実施後の二者相談だけでなく、定期的に相談活動を実施している。 ●生徒指導に係る事案について子ども未来課や警察等関係機関と情報共有を含め連携をとりながら進めることができている。	【生徒指導全般】 ○全教職員が共通理解のもと誰に対しても同じ指導をすすめる。そのためにルールや基準を明確にし、例外がないよう生活の基本を指導する。 ○学校外でも挨拶できるよう、普段の指導を大切に、定期的に生徒会からも呼びかける。 ○生徒とのコミュニケーションを大切に人間関係の構築に努める。普段の教員からの声かけを増やす。 ○学年の枠だけに終わらず、全教職員がチームとして機能するよう生徒指導・教育相談を継続する。今年度も、気になる生徒に関わって情報共有を密にし、S CやS S Wとの連携を深め、スクリーニング会議を含め対応することができた。
			・ 学校外での挨拶の実施状況	・ 保護者アンケートの結果が約70%となったか。	B			
		②清掃活動の定着	・ 清掃活動に対する取り組み度合い	・ 生徒アンケート結果が75%以上であるか。	A			
			・ 清掃時間の確保	・ 清掃時間を週3日以上確保できたか。	A			
	(2) 学習指導	①学習指導計画	・ 指導計画(シラバス)の作成と実施	・ 各教科のシラバスを作成し、生徒に示したか	B	A	●学年別シラバスを作成し、5月生徒・保護者に示した。シラバスの活用を配布時だけではなく、今後も適宜利用し、有効的な活用を進める。 ●今年もコロナ禍ではあったが、学びをためないで、年間計画に基づいた学習がほぼ予定どおり実施することができている。 ●授業の最初に、その時間での学習内容や到達目標を示すことで、生徒の興味・関心を高め、学びに繋がる授業構成を意識している。生徒のアンケート結果からも「授業で学習目標がわかりやすく示されている」という問いに約80%の生徒が肯定的に答えている。 ●生徒アンケート「先生方の話や授業の内容は、自分にとって分かりやすいか。」の問いに約80%の生徒が肯定的に答えている。 ●道徳、学活、総合的な学習でも上記のようにタブレットを使ったグループ活動で、対話を重視した学習形態につながっている。	○新学習指導要領施行に伴い、シラバスで示した学習内容を習得定着させるための具体的な取組・方法を工夫していきたい。 ○家庭学習の時間の充実にも保護者への周知を図りたい。県教委発行の家庭学習の手引きの活用、具体的な家庭学習の方法や内容を示したい。 ○「できた」達成感のため、学び合う授業づくりを進め、自己肯定感を高めた授業づくりを徹底する。 ○授業のU D 化を全教科でさらに進める。 ○学習規律を徹底する。 ○各教科におけるタブレット活用について、教師間での交流を深める。タブレットを用いて作成した提示資料については、教師間での共有を行う。また、それに関する研修の深化を図る。
				・ 年間計画通りに学習指導を進めることができたか	A			
		②指導方法の工夫改善	・ 指導方法の工夫・改善	・ 授業の最初に、その授業での「ねらい」を示したか	A			
				・ 生徒にとってわかりやすい授業を心がけたか	A			
	(3) 生徒会活動、部活動の活性化	①生徒会活動の活性化	・ 生徒が主体となる活動の計画・実施	・ 生徒会が中心となるあいさつ運動を実施することができたか。	B	A	●今年度あいさつ運動は、執行部だけで2学期に取り組むことができた。 ●今年度、リモート形式ではあったが集会や式において生徒会が運営している。 ●3学期に、生徒会が中心となりボランティア活動をおとして地域への貢献を予定している。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止に徹底指導してきた。また、熱中症対策についても、昨年度に引き続き取り組みができた。 ●コロナ禍で2年連続部活動保護者懇談会を開催できなかったが、今年度は各部毎に開催できた。	○生徒会活動を定例化し、生徒と共に活動すると同時に地域にも目を向けさせ、活動の幅を広げていく。 ○ケガや事故に繋がらないよう常に心がけ指導をすすめる。また、ヒヤリハット事象が起こった場合は、事故未然防止の観点から事象の共有化と指導の再点検を行う。
				・ 執行部と専門部が連携した活動を行うことができたか。	B			
		②部活動の活性化	・ 安全な部活動の実施	・ けがや事故、熱中症等に対して適切な対応ができたか。	A			
				・ 生徒が意欲的に取り組む部活動	・ 部活内でのいじめや体罰を防止し、楽しめる部活動となったか。			
(4) 人権意識の育成	①人権教育の内容点検	・ 人権教育推進計画に基づいた指導	・ 校内人権教育推進計画に基づいた指導が進められたか。	B ↑	B	●12月にPTA研修部と合同で、人権教育講演会を開催した。とてもわかりやすい内容の講演会であった。異文化理解をテーマに、生徒にとってわかりやすい内容であった。 ●福祉に関する講話を地元宇陀高校より来校いただき1年生で実施した。生徒たちが車椅子体験をおとして、福祉について身近に感じることもできた。 ●大和育成園との活動(交流)が新型コロナウイルスの影響で昨年度実施できなかったが、今年度は可能な限り実施できた。 ●各学年とも、概ね年間計画に沿って実施できた。2学期に1年、3学期に2・3年の授業交流を行った。 ●限られた人数であったが、奈良県で開催された「全人教・全同教研大会」に参加できた。	○人権学習と道徳の一体感ある計画を立てる。 ○生徒たちの身近にある人権教育課題に焦点を当て、それを解決できる計画を立案し、実行できる方法を考える。 ○いじめや仲間外れに対する指導に関係機関との連携を深め、専門的知識を有する人からの研修も実施できたと考える。 ○大和育成園の学習会に全教職員が参加し、交流を深め、内容の充実を図る。 ○生徒一人一人の生活実態を把握し対応をすすめる。 ○全人教・素人教大会への研修会への積極的な参加呼びかける。	
			・ 確かな人権意識を身につけさせる取組ができたか。	B				
	②人権に関する取組の推進	・ 人権フォーラムや学習会の組織化	・ 新たな活動を創造し、組織化することができたか。	B				
			・ 生徒たちにとって魅力ある活動となったか。	B ↑				
(5) 特別支援教育の活性化	①特別支援教育の充実	・ 特別支援計画に基づいた指導	・ 支援のありかたについて情報共有をはかっているか。	A	A	●二階堂養護学校から講師を招聘し、支援を要する生徒にとってどういう困難があるのかを明らかにし、支援の在り方と指導の視点を明確化できた。 ●日々の生活だけではなく、適宜家庭訪問等家庭との連絡を密に行っている。 ●通級指導は、設備・制度面と内容の充実と定着化が図れつつある。普段の指導の配慮が、3年生の高校入試での配慮受検につながっている。	○すべての教職員の協力の下、特別支援教育を推進する。 ○通級指導においては、市教委とも連携し宇陀市の拠点となるべき活動を推進すると同時に、通級指導生徒増に対応すべく人的配置を求めた。	
			・ 家庭との連携	・ 日頃より支援学級生徒について家庭と連携できているか。				B
			・ 通級指導計画に基づいた指導	・ 新たな活動を創造し、活動することができたか。				A

令和4 年度 宇陀市立榛原中学校 自己評価書( 学校経営)

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目	評価指標	評価	成果と課題	課題の改善方策等
Ⅱ 学 校 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	①学校経営目標・方針	・ 学校経営目標の明確化	・ 明確な学校目標や経営方針を示したか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校目標、経営方針及びグラウンドデザインを新たに示した。年度当初に職員に示し、確認している。</li> <li>●学校だよりにも「学校教育目標」を掲載し、周知を図っている。アンケートで肯定的な回答をした保護者は70%と令和3年度より7%下回る結果となった。</li> <li>●学校目標の具現化に向けた校務分掌を目指し、それに基づく役割の明確化を図っている。今後も継続的に取り組むたい。</li> <li>●毎週水曜日を定時退庁日としている。さらなる徹底を目指したい。</li> <li>●企画委員会が熟議することで、職員会議の時間短縮につながりつつある。</li> <li>●いじめや不登校の情報交換は職員会議等で行っている。個々の不登校生徒に関する情報共有を学期に1回開催しSCや関係機関との連携を図った。さらにスクリーニング会議を活用し、不登校支援を進めていく。</li> <li>●携帯・スマートフォンに関する生徒への講話を桜井警察の協力の下、1学期末(7月)に1年生を対象に実施できた。</li> <li>●年度当初に校則等の見直し点検を行い、指導の一貫性について確認した。</li> <li>●避難訓練を1学期に実施。また、災害時の迎え確認カードを作成し学校での保管をしている。コロナ禍ではあるが複数回の実施を目指したい。</li> <li>●学期初めやテスト期間中にはPTAの協力も得て立哨指導をするなど、登下校の安全に力を入れた。</li> <li>●コロナ禍でPTAと連携し、榛原初戒のみ巡視活動を実施できた。</li> <li>●県、市カウンセラーや特別支援アドバイザー、子ども未来課や警察等々と連携し対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校目標の具体化をさらに進め、各分掌の取組につながるのと同時に、学校評価の項目と連動させながら取組を進める。</li> <li>○部活動の休養日と連動し、出退勤システム導入により客観的に勤務時間の見直しを図り、教職員の働き方の工夫を進めたい。</li> <li>○教職員のストレスチェックを積極的に進める。</li> <li>○校務を明確にし、それぞれの仕事内容を分かりやすくし、実際に行動しやすいように校務分掌の見直しをさらに進めていく。</li> <li>○課題のある生徒への早期発見・早期対応ができるように、SSWや養護教諭との連携をさらに進めたい。</li> <li>○教職員の危機管理能力を高めるための研修と生徒に課題や問題点を考えさせる機会を持つ。</li> <li>○教員の指導力向上を目指し、各自が生徒指導に関わる研修(いじめ・体罰防止、不登校支援等)に参加する体制づくりを進める。</li> <li>○災害時の訓練として、家庭や地域と連動した取り組みを進める。</li> <li>○今後も、生徒の心身の課題に応じた指導を進めていく。特にアレルギー疾患のある生徒への対応について研修する必要がある。</li> <li>○不登校生徒が増えている現状に鑑み、SSWの来校回数を増やす。</li> <li>○OSC、養護教諭、人権教育担当、不登校支援担当等が連携して取組に当たる。</li> <li>○市適応指導教室と定期的な情報交換を行う。</li> <li>○学校保健委員会の定期的な開催を推進する。</li> <li>○学校HPから情報を日々提供できている。</li> <li>○メール配信を有効利用が出来ている。利用登録者数は、ほぼ100%に近い状況である。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の状況により、授業参観を1・2学期に実施したい。</li> <li>○地域との連携を深めるためにも、地域の人材活用を目指す。</li> <li>○生徒会を主体とした活動を拡大させたい。</li> <li>○幼稚園・保育所との連携の強化、小学校や高等学校との連携に努める。</li> <li>○来年度学校コミュニティスクール設立に向け準備の年としたい。</li> <li>○学校の情報(学校だより)を評議員にも提供している。</li> <li>○タブレットの活用は、各教科、道徳や総合的な学習で行っている。さらに、タブレットを使った指導方法の改善を進めたい。</li> <li>○生徒アンケートによる日常の読書時間が少ない結果から、図書室の利用による読書活動のさらなる充実を努めていきたい。</li> </ul>
			・ 学校経営の方針を教職員に周知したか	B			
		②校務分掌等の連携業務軽減	・ 校務分掌の適正化	・ 仕事量や業務の関連を考慮した校務分掌とすることができたか	B↓		
	・ 業務の改善と軽減		・ 定時退庁の周知を図ったか	B			
	③会議の運営	・ 企画委員会の改善	・ 企画委員会で熟議することにより、職員会議の改善につながったか	A			
		・ 各種会議の設定と定例化	・ いじめ対策・不登校対策特別委員会を定期的に開催できたか	B			
	(2) 危機管理	①危機管理体制の整備	・ 危機管理マニュアルの徹底	・ 研修を持ち、危機管理の共通理解ができたか	A		
			・ 生徒指導体制の構築	・ 生徒指導マニュアルの見直しを行い、改善できたか	A		
		②安全指導の徹底	・ 全校体制での取組の実施	・ 避難訓練を複数回行えたか	B		
			・ 日常的な取組の実施	・ 日常的に安全意識を高めるよう取り組んだか	A		
		③家庭や関係機関との連携	・ 家庭との連携	・ PTAや地域と連携し、取組を進めることができたか	B		
			・ 関係機関との連携	・ 関係機関との連携を強化することができたか	A		
	(3) 保健管理	①保健指導	・ 学校保健安全計画の立案	・ 学校保健安全計画は適切に作成されているか	B		
			・ 保健指導の充実	・ 生徒の健康状態や心身の課題に応じた指導ができたか	A		
		②心のケアや健康相談体制の整備	・ 学校カウンセラーの活用	・ カウンセラーと連携して生徒の指導にあたったか	A↑		
・ 健康相談活動の充実			・ 養護教諭を中心とした健康相談活動を進めたか	A			
③関係機関との連携		・ 学校医や保健センターとの連携	・ 学校医や保健センターと連携した取組ができたか	B			
		・ 保健センターと連携した歯と口の健康に関する取組(ポスター、標語) 出品し、学校医からコロナ禍での感染防止に関するアドバイスを適宜ご指導いただいた。					
(4) 保護者・地域との連携	①学校情報の発信	・ Webページの活用	・ 学校行事や学校からの情報をwebページを通じて、積極的に発信できたか	A			
		・ 情報発信システムの活用	・ メール発信システムを活用して、保護者への情報提供を効果的に行ったか	A			
	②学校(授業)公開	・ オープンスクールの活性化	・ オープンスクールの実施方法を工夫することができたか	C			
		・ 授業参観の実施	・ 授業参観を年2回以上実施できたか	B↑			
	③家庭・地域との連携	・ 保護者・地域住民の学校教育への参加	・ 保護者や地域の方を学校教育に生かす機会ができたか	B			
		・ 生徒の地域活動への参加	・ 生徒が主体的に取り組む地域貢献活動ができたか	B			
	④校種間連携	・ 異年齢間の交流	・ 保・幼・小と連携した取組ができたか	B			
		・ 高等学校との連携	・ 高等学校と連携した取組が継続・発展できたか	B↑			
	⑤学校評議員の活用	・ 学校評議員委員会の開催	・ 学校評議員委員会を定期的に開催できたか	A			
	(5) 教育環境整備	①施設設備の有効活用	・ 空き教室の利用	・ 空き教室を学習活動に活用することができたか	A		
・ 学校施設の有効活用			・ 学校の施設を授業以外でも活用することができたか( 目的外使用)	A			
②教材・教具の整備		・ 教材・教具の整備・活用状況	・ 必要な教材・教具を計画的に整備できたか	A			
		・ 図書・副読本等の整備・活用状況	・ 図書室の本や副読本( なかま、道徳) を活用したか	B			